	領域代表者	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 浜田 明範（はまだ あきのり）	研究者番号:30707253
	研究領域情報	領域番号：23B101 キーワード：新型コロナウイルス感染症、都市化、脱人間中心主義、集団の形成・変容、ケア	研究期間：2023年度～2025年度

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●研究の全体像

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、感染症が人間の生に甚大な影響を与えることを、強い痛みを伴いながら教えてくれるものでもあった。通常の社会生活が妨げられることによって、私たちは、これまでの生活が極めて危ういバランスの上に成り立っていたことを知った。同時に、そのバランスが医療者を含めた多くの人びとの営みによって支えられていること、また、私たちの些細な行動の変容によって変化しうることも学んできた。

それだけでなく、このパンデミックは、人文諸学が依拠してきたこれまでの前提を大きく揺るがすようなものであった。変異を繰り返しながら、今なお私たちを翻弄し続けるウイルスの存在は、医療や政治、都市やケアのあり方だけでなく、他ならぬ「人間」のあり方についても、再考を迫り続けている。

そこで本研究領域では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを世界各地の人びとがどのように経験してきたのかについて、従来の人文諸学の枠を越えるような形での記述と検討を行っていく。文化人類学者と歴史学者を中心としながらも、それぞれに隣接分野や医学の研究者が含まれる四つの研究計画を組織し、それぞれが交差する地点で革新を起こすことにより、真に感染症に強い社会を構想するための総合知を作り出していくことを目的としている。

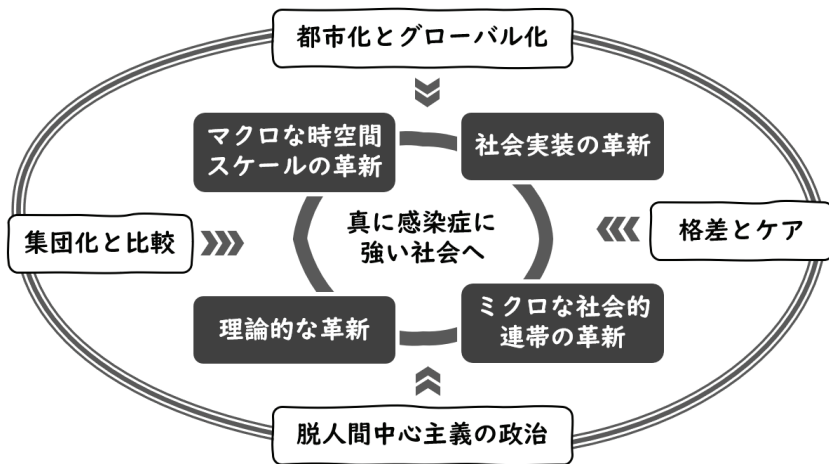


図1 本領域の四つの問題系と四つの革新的取り組み

都市化とグローバル化（感染症を抑制できる都市とは？）

都市化とグローバル化は感染症の流行を広める要素であるが、同時に、私たちの生活を便利にするものでもある。そのバランスの実態と変更可能性について検討する。

脱人間中心主義の政治（人間以外のものによりよく対処できる政治とは？）

感染症対策はしばしば自由の制限を伴う。これを人間同士の力関係の問題としてだけでなく、人間以外の生物や事物との関係を含みこむようなものとして、再定位する。

集団化と比較（比較の単位として国や自治体は妥当か？）

パンデミック下では、流行状況や対策のあり方などについて、様々な単位での比較が行われる。比較の単位としての人間の集団がどのように作られてきたのかを検証する。

格差とケア（格差のなかでのケアと連帯はどうあるべきか？）

パンデミックの影響はすべての人に等しく降りかかるのではなく、階級やジェンダー、疾患や障害の有無によって、その影響の深刻さは異なる。その実態を明らかにするとともに、差異を乗り越えた連帯の可能性を探る。



日本を中心とする東アジアに重点を置きながら、世界各地の状況を展望する

図2 本領域の対象地域

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●「感染症の人間学」という研究領域の創出

パンデミックは、世界各地で極めて多岐にわたる影響を与えるものである。それに比して、個々の研究者やひとつの研究分野がカバーできる範囲は、相対的に極めて限定されている。そこで本研究領域では、「感染症の人間学」の名の下に、我が国においてパンデミックと感染症について検討を続けてきた、主に人文諸学の研究者の知見を学問分野をまたいで糾合し、パンデミックという現象についての立体的な見取り図を作成していく。この作業を通じて、感染症と人間の関係、感染症と社会の関係を考えるための、概念・理論・方法・実践のそれぞれを更新していく。

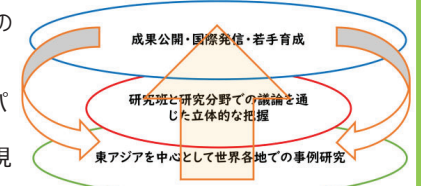


図3 研究成果の波及と循環

その成果は、日本語と英語の出版物やウェビナーの実施等を通じて広く公開していく。同時に、特に東アジア地域についての研究の国際的な優位性を活かしながら、国際的な発信を強化していくとともに、次世代の研究者を育成するための支援も、実施していく。

●各班の取り組み

都市化とグローバル化

人類史において都市が果たしてきた役割についての歴史学における広範な蓄積に基づいて、パンデミックにおける都市的なライフスタイルの制限について研究し、都市の魅力と限界について再検討する。

脱人間中心主義の政治

文化人類学および感染症学のフィールドワーク、歴史学（医学史）の史料収集・分析、哲学的な民族誌の解題を組み合わせることにより、パンデミックが改めて明るみに出した人間と非人間の関係を再考し、新たな人間観を提示する。

集団化と比較

歴史学と文化人類学の共同研究により、過去および現在の感染症流行における集団の形成や変容を比較・検討し、新型コロナウイルス感染症への人間の対応に歴史的継承性が見いだせるのかを明らかにする。

格差とケア

文化人類学・公衆衛生学・歴史学等の手法により、人々が感染症の負の効果を被る要因を詳細に分析し、倫理学や経済学の知見により、格差や暴力を克服し人々が日常を回復するための道すじを見出す。



図4 人びとを結びつけ、また分断もしたマスク（2022年10月15日岡山にて撮影）